



本校は、令和4年度と5年度、文部科学省から「人権教育に関する研究校」としての指定を受けています。今年度は、学校課題を「豊かな人間性や自尊感情を育成する人権教育～互いの違いやよさを認め合い、相手の気持ちを考えて行動できる児童の育成～」をテーマに設定し、児童、教職員、そして保護者の皆様とともに、人権に関する意識を高め、よりよい児童の育成、より過ごしやすい学校・家庭・地域づくりにつなげていくために様々な取り組みをしています。

その一環として人権教育に関する本校の活動を伝えるための人権だよりを発行します。第2号では、ユニセフ出前授業、白鷗大学から来校してくださった中山先生による道徳の授業、校内研究授業の様子を紹介します。

## ユニセフ出前授業「貧困と児童労働について」(10/21)



5年生の総合的な学習の時間の一環で、「貧困と児童労働」について学習しました。絵本「そこ」をとおして、一人一人が感じたことや考えたことをグループワークで共有しました。「世界には働かなければならない子どもがいる」ことや「現在の自分の生活が当たり前ものではない」ということに気づき、視野を広げることができました。

## 白鷗大学 中山先生の授業 2年1組 道徳(10/26)



2年1組の道徳では、「ハンナのなみだ」という教材から、国際理解について学習しました。このハンナという登場人物は、日本語を話すことができません。しかし、言葉が通じなくても、仲良くなりたいという気持ちは同じで、身振りや手振りを使って仲良くなろうとします。児童からは、言葉が通じなくても相手の気持ちを考え仲良くなろうとすることで、心（気持ち）は伝わるということが分かったという考えが生まれました。言葉の通じない外国の方とも、親しみをもって関わろうとする気持ちが高まりました。

## 白鷗大学 中山先生の授業 4年2組 道徳（10/26）



4年2組の中山先生の授業では、「いじりといじめ」について学習しました。自分が楽しく相手をいじって、相手が楽しそうに見えても心の中では嫌な思いをしていることがあると学びました。いじりといじめの違いについて、初めて考えるきっかけとなった児童も多く、これからは自分が楽しい時に、相手の心の中まで考えるようにしなければならないと気付きました。

## 校内研究授業 4年1組 道徳「外国とのちがいを受け入れて」(11/25)



4年生の道徳で、他国の伝統や文化についての学習をしました。文化によって食べられない食材があることや箸やスプーンなどを使わず直接手で食べる文化があることを知り、それぞれの国によって異なる文化があることを学びました。日本では見られない文化ですが、子どもたちは興味をもって、熱心に話を聞き、考えていました。また、伝え合うときはお互いの目を見て話すなど、温かい雰囲気での授業が進められていました。

## 校内研究授業 6年1組 社会「町人の文化と新しい学問」(11/25)



6年1組では、澁染一揆について学び、そこに込められた人々の思いや願いについて考えました。澁染一揆は、差別されてきた人々が起こした一揆です。児童は、差別の内容や一揆を起こした理由を知り、差別は絶対にあってはならないものだと考えていました。6年1組の授業中も、友達が話をしている時は共感的態度で理解しようとする姿が見られ、温かい雰囲気が感じられました。